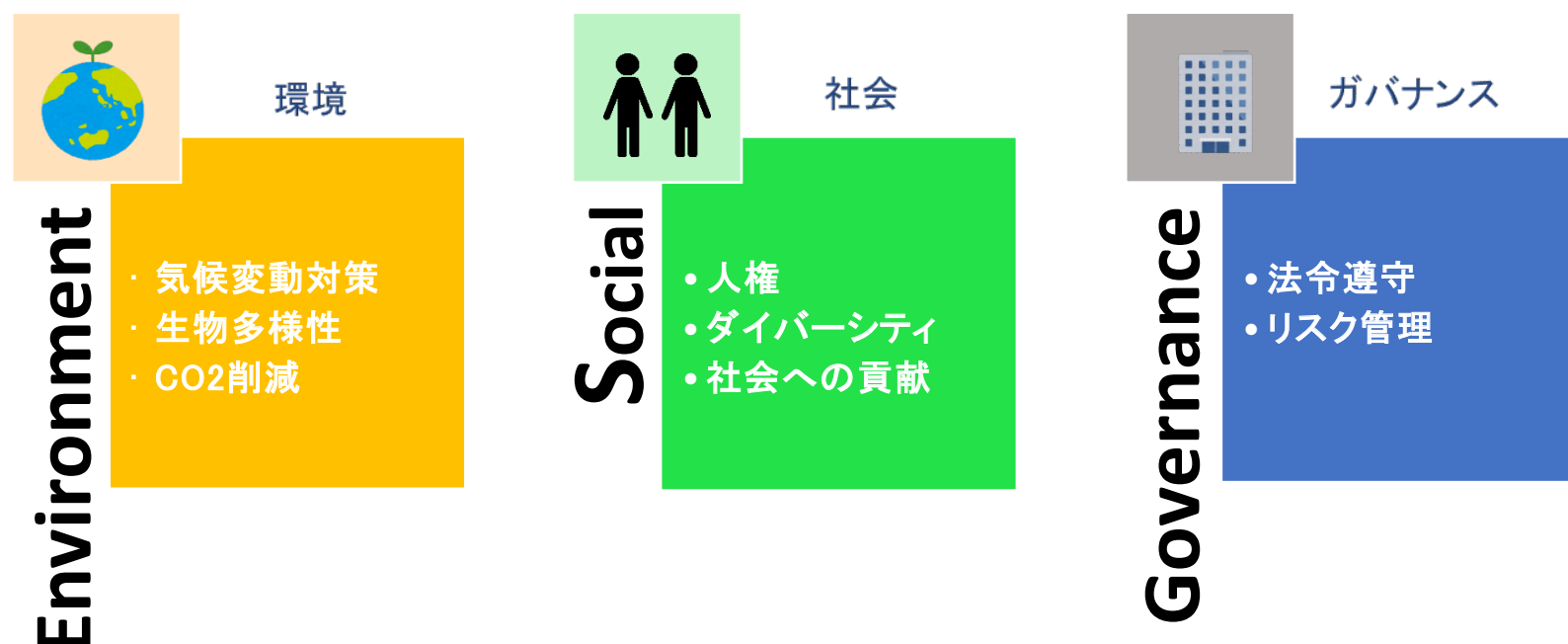


JICS NGO支援事業 活動報告

JICSは、民間団体による国際協力活動の一層の発展に寄与することを目的として、開発途上国への援助活動を行う日本の中小規模NGO・NPOに対し、支援金による助成（JICS NGO支援）を行っています。国際社会の貧困・飢餓や紛争、環境破壊や災害など世界で起きているさまざまな課題に対して、「誰一人取り残さない社会」の実現のため持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けて取り組む市民団体・非営利団体を支援することは、JICSのESG（環境・社会・ガバナンス）への取組みの一つと位置付けています。



2020年度採択団体 活動報告の紹介

JICSが支援したNGO・NPO団体の一部事業を紹介します。（JICSの支援金額は、1件あたり100～160万円です。）

特定非営利活動法人 エイズ孤児支援NGO・PLAS

〒150-0012 東京都渋谷区広尾5-23-5 長谷部第一ビル402号室
Email: info@plas-aids.org HP:https://www.plas-aids.org/ TEL:03-6821-1758



実施プロジェクト名 ウガンダ共和国ルウェロ県HIV陽性の脆弱な家庭に対する農業を通した生計向上事業

対象国 ウガンダ共和国

プロジェクト概要

ウガンダ共和国ルウェロ県HIV陽性の脆弱な家庭に対する農業を通した生計向上事業

プロジェクト内容と成果

本事業では40家庭に対して、主に3つのことを実施しました。
①家庭の収入向上のための農業技術研修とフォローアップ
②HIVに関する正しい知識を得るためのアドヒアランス向上研修
③教育の重要性の理解が深まり、保護者の教育に対する理解が深まるようにするための親子へのカウンセリングセッション
これらにより教育への理解が深まり、子どもたちの将来をサポートするために行動する保護者が増加しました。
収入向上策により約8割の家庭が教育費を払うことができました。
また、現在すべての子どもが学校に通うことができています。

SDGsに向けての今後の活動

1年目は研修を中心とした活動で、2年目は自立するためのフォローアップ活動がメインとなります。保護者が必要な学費を確保して子どもたち全員が次の学年に進学できるよう、今後も現地スタッフが現地でサポートを行います。
現地スタッフが月1回以上モニタリングを行い、1年目に行った農業・ファイナンス・マーケティング研修の内容や、カウンセリングの内容、アドヒアランス研修の内容について受益者に確認し、必要なフォローアップを行います。今回の活動のノウハウや経験を他の事業にも生かし、活動を継続していきます。



特定非営利法人 エクアドルの子どものための友人の会 (SANE)

〒357-0006 埼玉県飯能市中山493-10
Email: info@sanejapan.org HP:http://sanejapan.org TEL:042-973-0781



実施プロジェクト名 エクアドル共和国での教育支援の活動を安定的に実施、継続できるような国内体制の強化

対象国 エクアドル共和国

プロジェクト概要

事務局活動を充実させ、業務交代可能な安定的な体制に変えていく。
会員、寄付、助成金の獲得に向けた活動を引き続き強化し、継続的に活動場所を確保する。

プロジェクト内容と成果

約30年活動を続けてきましたが、個人に集中した業務形態では、質の高い活動を続けていくことが困難と考え、交代可能な組織づくりのために国内基盤強化を行ってきました。
具体的には、1. 必要な資金の確保、2. 資金管理体制の確立、3. 発信力の強化、4. 事務所確保と事務局体制の確立 を課題として取り組み、2、3、4に関しては改善することができました。
1. 必要な資金の確保に関しては、引き続き、取り組んでいく予定です。

SDGsに向けての今後の活動

私たちは、奨学生事業と教育環境改善事業の二つの事業を軸に事業を進めており下記二つの目標達成に向けて今後も事業を進めていきます。
2. 飢餓をゼロに：教育環境改善事業を通して、学校給食・学校菜園・栄養についての事業を行い、食の大切さを伝えていきます。
4. 質の高い教育を：奨学生事業を通して、経済的に困難を抱える子どもたちが基礎教育を終了できるように支援していきます。日本からも文通で奨学生を支えます。



特定非営利活動法人 ISAPH

〒830-8543 福岡県久留米市津福本町422番地 聖マリア病院 国際事業部内
Email: jimukyoku@isaph.jp HP:https://isaph.jp/ TEL:092-621-0034



実施プロジェクト名 ヤシオオサゾウムシ養殖「モデル世帯」育成プロジェクト

対象国 ラオス人民民主共和国

プロジェクト概要

ヤシオオサゾウムシは、養殖が容易で栄養価も豊富、かつ市場価値も高い。この養殖技術を自立的に普及する基盤を作るため、高い養殖技術を備えた「モデル世帯」を育成する。

プロジェクト内容と成果

各村落で自立的な養殖を実施するため「モデル世帯」の候補となる住民を選定し、安定した昆虫生産のための餌となるキャッサバの栽培技術、及び繁殖を目指して栄養状態の良いゾウムシを育成するための技術を提供した。
本活動の対象となったすべての世帯が、期待された数量のキャッサバを収穫し、目標とする「3世代の継続したゾウムシの繁殖」を達成することができた。本活動により、各村落の中で一般世帯がゾウムシ養殖を開始する際に支援者・指導者となる「モデル世帯」を、16世帯育成することができた。

食肉と変わらない栄養価であることや、食肉よりも温室効果ガスの排出が少ないという利点があるものの、その見た目から敬遠される「食物としての昆虫」。しかし、ラオスでは当たり前の食材として利用されている文化がある。この文化を強みとして、住民の生活、健康、栄養の改善に寄与したい。今後は、養殖された昆虫が適切な値段で販売できるように市場開拓を支援することで、昆虫のフードバリューチェーンの開発に注力し、この理想を現実化していきたい。



特定非営利活動法人ハロハロ

〒108-0014 東京都港区芝4-7-1西山ビル4F
Email: mail@npohalohalo.org HP:https://www.npohalohalo.org TEL:050-5539-5524



実施プロジェクト名 セブ州貧困層の人々への金融サービス提供を行う組織の基盤づくり事業

対象国 フィリピン共和国

プロジェクト概要

複数の住民グループが貯蓄活動を行い、相互に交流を持って情報交換を行うことを通して、草の根の貧困層が運営主体となる金融サービスの確立を目指す。

プロジェクト内容と成果

マイクロファイナンス専門団体アクセスアドバイザーによる伴走支援を受けることで、フィリピンと日本のコアスタッフは、組合組織と運営管理における一般的知見を得られた。さらに、現地協働団体と4つの住民グループ合計95名と、貯蓄や組合についての理解を深める研修の場を作ることができた。
当該事業によって、新たな組合を立ち上げることについては運営管理や人材確保の困難さが明確になり、既存のマイクロファイナンス機関と連携して、貧困層のニーズをつないでいくことの重要性を認識することができた。

SDGsに向けての今後の活動

マイクロファイナンス機関と地域住民グループのパートナーシップを促進することで、貧困にある人々が金融知識を獲得することを支え、安心して貯蓄でき、融資を受けられる環境ができていくことで、経済面から貧困の脱却を目指していく。

